



学年主任 黒田 京子

自由奔放な5期生

総合学科5期生は、2008年4月、約2倍の厳しい入試倍率を突破し入学しました。

そして貝塚高校が70周年を迎える2011年3月に卒業しました。目には見えない何かを持っていると感じざるを得ない生徒たちでした。

当時の入試は、個人の特性を重視し、得意科目が2倍に点数化され、面接も実施されていたので、実に個性豊かな生徒たちが集まりました。お互いの短所を蔑んだり攻撃するのではなく、個人の特性と考え尊重し、長所については賛辞を惜しまない姿勢がありました。学年で2名の自立支援生徒とは、昼休みも共に過ごすなど同じ仲間であるという意識が強く感じられました。

校外学習は、1年次は信太山野外センターでカレー作り、2年次は光滝寺キャンプ場でのバーベキュー。そのいずれもレクリエーションは、クラス対抗綱引き大会。教師に頼らず自分たちで重い大綱を準

備し楽し気に運ぶ姿に感心したものです。好奇心、自立心旺盛な生徒の集まりでした。

修学旅行は、学年全員で同じ所へという希望はありましたが、慣例に倣い選択制で、北海道と屋久島へ行きました。このように、生徒は好むと好まざるに関わらず、様々な場面で意思決定の機会が与えられていました。

卒業を控えた3年次、不幸にも就職超氷河期が訪れ、不況のあおりで公務員や看護学校の競争率が激化しました。そのような状況下で、卒業後も夢の実現に向けて頑張る生徒が多く、それぞれに努力が報われていく姿にこちらの方が励まされました。

本校独自の産社や総学の授業での調べ学習や人権学習、各種ワークショップを通じて、生徒の主体性、人間性が育まれたものと確信しています。

80周年は、未来への通過点。これからの益々の繁栄と、いつまでも「最高!貝高!」と慕われ続けられる貝塚高校であって欲しいと願っております。



5期生 塩谷 秋恵

創立80周年を心からお祝い申し上げます。

私が卒業してから10年が経ちましたが今振り返ってみるととても充実した時間でした。入学当初は高校生活に慣れず、時間が過ぎるだけの日々でしたが、そんな時先生に「何事もやらない損!」と大切なことを教わりました。以来、この一生に一度しかない高校生活を楽しもうと思えるようになり、かけがえのない友人や、支えてくれる先生方に恵まれ、いつの間にか毎日がとても楽しくなりました。私が進路で悩んだ際に

も、周りのサポートのおかげで自分のしたいことが明確になり、高校卒業後は国家資格を取得し、現在歯科衛生士として働いています。今の充実した生活があるのも高校生活があったからです。ここで改めてお世話のなった先生方や友人達に感謝を伝えたいと思います。

これからも貝塚高等学校のますますのご発展をお祈り申し上げます。



● 3年次担任

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
北本	磯野	水野千	吉澤愛・寺田洋	高橋・黒田	金子	日野



学年主任 野口 初美

総合学科になり、ようやく軌道に乗ってきた頃の6期生でしたが、私としては、不安いっぱいスタートでした。生徒も教員も個性豊かな集団で、いろいろな問題もありながら一つずつ乗り越えていったような気がします。

産業社会と人間では「聴く」「メモを取る」「考える」を大切に、たくさんの講演を聴くことから始まり、課題研究、発表とたいへんでしたが、生徒にとっても私にとっても、とてもいい経験になったと思います。また、修学旅行では、最後の選択制となり、沖縄と北海道に分かれて行きました。沖縄では平和学習と民泊で、民泊の宿舎を離れる時には、涙のお別れでした。北海道ではアイヌ民族学習とスキー・スノーボード体験と中身の濃いものだったと思います。3年の終盤では、神戸の震災経験者のお話を聞き、鬼気迫るお

話に涙したこと、コスモシアターで「チンチン電車と女学生」の演劇を鑑賞し、劇団の方々に、「高校生がこんなに真剣に見て下さることに驚きました。」とお褒めの言葉をいただき、平和に安全に暮らせることに感謝したことなど、いろいろな思い出が蘇ってきます。

定年を前にして思い返すと、6期生は良い意味でも、悪い意味でも、自分の心に素直だったと思います。ですから、いろんなところで、生徒と教師がぶつかったようにも思いますし、その分、成長もしてくれたと思っています。私自身も貝塚高校で6期生に出会えたことで成長できたと思いますし、感謝しています。

手前味噌かもしれませんが、何より学年の先生方も生徒たちもいろいろな思いを共有できた良い集団になったと思っています。



6期生 小稲 美久

感謝

私が貝塚高校を卒業してから、9年が経ちました。貝高生として過ごした3年間は、今の私の人生にとっても良い影響を与えてくれました。私の学生時代は、部活動がすべてで、バスケットボール部に所属していました。仲間にも顧問の先生にも恵まれ充実していたと思います。

現役時代は、1人で何でもできると思っていました。先生や仲間、家族の支援があったからこそ、大好きなバスケットボールに熱中することができた3年間

だったと引退する時に初めて気づきました。私1人では何もできていなかったのだと。先生や仲間、家族には感謝しかありません。

私は今、消防士として働いています。体力も必要ですし、大きな壁にもたくさん直面して悩みも尽きません。しかし、私1人ではなく、周りにも頼って壁も乗り越えていこうと思います。

最後に、元貝高生として恥ずかしくないように何事にも挑戦し続けたいです。



● 3年次担任

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
藪谷	伊藤恵	中村久・田仲	野口・野田	石川・柳	森ゆ	喜納



学年主任 池上万由美

創立70周年の年に入学した7期生は、20代5人と5人の50前後の担任団で、少しばかりのジョエネレーションギャップを感じながら始まったことを思い出します。

この学年は、本校が総合学科として落ち着いてきたためか、様々な新しい試みを行わせていただけた学年でもありました。

1年次の文化祭では、1年クラス対抗合唱コンクール（文化祭の催しとしてはいささか問題がありました）を行い、学年展示として巨大壁画に取り組み、近隣の住民の方にも評判がよく、文化祭終了後もしばらく展示させてもらいました。

2年次の校外学習では、グループによる大阪市内周遊を企画し、この企画は現在も、校外学習企画として行われています。

修学旅行も、前年度までは選択による分散実施でしたが、学年同一場所を可能にいただきました。

文化祭の後夜祭も、「準備・後片付け・企画運営全部自分たちで責任もつてするから」という生徒の熱い思いを、先生方が受け止めて頂き、開催できました。

なんだか、これもあり、あれもありと様々な行事が思い出されますが、「先生たちいつもニコニコしている。」

「みんなのこと見ていたらニコニコしてしまう。」受験前には「先生の顔見たら安心した、明日頑張る。」などの何気ない日常も楽しく充実していました。

生徒が望むことを教師が受け止め、生徒も教師が望むことを理解し応える、そんなお互いを認め高めあった3年間、この学年に関われたことに感謝します。



祝 貝塚高校70周年
64期合同制作



7期生 岡村 凌佑

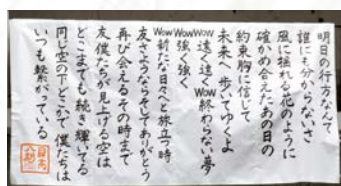
貝塚高校が80周年を迎えられましたことをお祝い申し上げます。私は、総合学科7期生として入学し、充実した3年間を送ることができました。この素晴らしい3年間を過ごすことができたのは、同級生や先輩・後輩という仲間のおかげでした。そして、当時の担任の先生方を始めとして、私に携わって頂いたすべての先生方のおかげだと思っています。紙面の許す限り当時を振り返りたいと思います。私は、高校入学とともに泉州地域に引っ越してきたため、右も左もわからない中、沢山の友達が声をかけてくれたのを鮮

明に覚えています。また、高校時代は野球部に所属し、2年半、毎日グラウンドで汗を流したのを覚えています。2年の秋、新チームになってから秋季大会で4回戦まで進出したことはいい思い出として残っています。私は現在、看護師として勤務し始めて4年目になりました。これからも高校生活で学んだことを活かし続けて行きたいと思います。在校生にとっても、この大切な3年間が充実したものになることを願っています。そして、これからも貝塚高校の益々のご発展を願ってお祝いの言葉とさせていただきます。



● 3年次担任

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
福永	藤尾	福田・森佳	池上・飛永	藤田・和田・坂口	吉澤広	辻本



学年主任 二木 貞夫

8期生の各年次の時の方針を今一度読み返してみた。

○1年次 『ルールを守ることが自由な行動への一歩であることに気づく』

…自主性を養い、チャレンジ精神を持って、さまざまな学校行事・クラブ活動に積極的に取り組む。授業を大切にする。他者の学習権を奪わない。友と競い共に支えあう。わがままを言わない。パブリックとプライベートを区別する。

○2年次 『8期生外へ! ～自分たちの可能性にチャレンジする～』

…ソウル修学旅行にむかい、チャレンジ精神を持って、授業・学校行事・クラブ活動に積極的に取り組む。授業・時間を大切にする。友と競い共に支えあう。授業はパブリックな時間、私語は不要。わがままを言わない、パブリックとプライベートを区別する。進路を見つめ、自らの生き方を考え、チャレンジする。生徒たちの目を大阪南部から、京阪神、全国に向けさせる。自立支援コースの課題は、生きる力を養うために、性教育や、外へ出たの勤労体験・社会見学等に積極的に取り組む。

○3年次 『8期生未来へ! ～みんなの力を結集し、進路実現を～』

…最終学年の自覚を持ち、授業・学校行事・クラブ活動に積極的に取り組み、クラス・仲間づくりを進める。学級委員の意識・学級委員会の機能を高め、すべての行事を自分たち自身の力で運営させる、身だしなみは貝高生の誇りと自

信の表出と自覚させる。授業・時間を大切にする。友と競い共に支えあう。進路を、自らの生き方を踏まえたうえで、考えさせ、生徒の本気と頑張りを引き出す。経済的な問題を知らせ、生き方を考えた上で、進路を決定させ、教職員みんなの力で進路実現をサポートする。

自立支援コースの課題は、社会人となる力と自覚を身につける。学校生活・クラブ活動・実習を通じ、基本的な生活習慣、学力、持久力、集中力、コミュニケーション力をつける。

そして「共に学び共に育つ」の3年間の集大成として、高校生活の良き思い出を作る。自立支援コースの生徒と他の生徒が、共に過ごした学校生活のまとめとなるような取り組みを行う。

生徒たちとともに、体育祭・文化祭・ソウル修学旅行、遠足、球技大会、すべてに方針を持って、学年集団一丸となって取り組みました。今思い返すと、方針の中のどれくらいのことのできたでしょうか。でも8期生の皆さんは日々輝いていました。8期生の皆さんと過ごした日々は我々教職員集団にとっても、輝いた日々であったことは間違いありません。最後の学年集会で皆さんが見せたサプライズは忘れません。学年集会はみんなで作るものと言い続けた集大成でした。生徒とともに言いながら、我々を高めてくれたのは8期生の生徒集団でした。本当に一緒に歩めて幸せな夢の瞬間でした。



8期生 榊原 梨沙

私は、農業をしてみたいという理由から貝塚高校を受験しました。入学後は農業の授業を選択し、たくさんの野菜を栽培しました。授業を通じてより農業に惹かれていき、嫌いだったトマトが食べられるようにもなりました。貝塚高校での生活は農業だけでなく、様々なことを体験し、学びました。行事については、3年生の文化祭では進路で忙しい人もある中、放課後の準備など、周りの人との関わり方や他と協力するということについて学ぶことができました。また、勉強

については、多くの先生にお世話になりました。特に担任の先生や英語の先生には何度も勉強を見ていただきました。自分の気持ちを後押ししていただいたたくさんの先生方のおかげで、最後まで取り組むことができました。現在は夢を実現し、教員採用試験に合格後、貝塚高校で農業の教員として働いています。お世話になった方々へ胸を張って「楽しいよ!」、「頑張っているよ!」と笑顔で話せるように、これからも頑張りたいと思います。

● 3年次担任

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
二木	西脇	川端・横内	大高・日野	篠原・野田	谷	宇野



学年主任 水野 正司

新型コロナの感染拡大も収束し、やっと日常を取り戻すことができた。そして、待ちに待ったマラソン大会のスタートラインに立っていた時だった。そのとき、少し後ろでなんか聞き覚えのある声がきこえた。声が聞こえるほうをふりむくと、声の女性と眼が合った。女性二人がこちらに向かってくるではないか。

「あっ、やっぱり。」女性に声をかけられた。

「たしか、少女Aだったかな?隣にいる子はどなた?」「妹のB子です。どちらさま?」「群れを嫌い、権威を嫌い、束縛を嫌う、教員のライセンスしかないティーチャー Mでした。」「相変わらずしょうもないで。」「本当にせんせい?うちのおかんが言うには、貝高にはまじめな先生ばかりでこんな先生おらんかったって言うったで。」「ほな、ちゃうか。いや、おった、おった。」「Aもしょうもないな」「お姉ちゃん、うちと違って貝高って本当に楽しかったんやなあ。」「そやで。勉強面では、総合学科の特色で、多くの科目から自分の進路にあわせた科目を選択できて、それが今の

仕事につながっているんよ。ただ、男の子の選択肢は少なかったけどな。ほかに、体育祭の応援団や文化祭でクラス劇をしたことがいい思い出になっているよ。」「いいなあ。」「B子さん。過去の出来事は過去のものであって誰にも変えられないし、またそれに左右されてはいけない。そして未来はやって来るとは思うが、もしかして来ないかもしれない。それは誰にもわからない。確実にあるのは、この瞬間!今だ!私たちがなすべきことは、今やるべきことに集中することだ。」「急に話が難しくなったが、なんかわかる気がする。」「今は走りに集中だ。」「パーン!「あっ、鳴った。」「この先、どうなるかはわからないが、とにかく足を一步一步前に出そう。タッ、タッ、タッ…「あっ、痛っ! 足つった。こむら返りだ。」「

あれ?夢か。いい夢を見させてもらった。9期生と10期生のみなさん、そしてかわわりを持ったすべてのみなさんに心よりエールを送ります。

♪ Hurrah! Hurrah! KAIKOU! ♪



9期生 山田 真瑚

貝塚高校で過ごした3年間は毎日が濃く、多くの思い出があります。その中で特に印象に残っているのは、3年生の時の文化祭です。私のクラスは行事ごとに熱くなり、文化祭でも定番「シンデレラ」の劇で、最優秀賞を狙いに行きました。本番までの日々は、皆で放課後遅くまで残って準備をしたのを覚えています。クラス全員で円陣を組み、士気を高めて迎えた本番。結果は大失敗。BGMが流れない、小さすぎるカボチャの馬車、ガラスの靴が行方不明で裏方がパニックになる等、失敗だらけのドタバタシンデレラ劇となりました。

しかし幕が下りると皆が謎の達成感で号泣し、最優秀賞の発表のギリギリまで、自分達の受賞を信じ切っていました。そんなまぬけな文化祭の思い出は、今でも集まると笑い話になります。結果が失敗でも良い思い出と言い合える文化祭となったのは、自分達で考え取り組めたからです。それは貝塚高校の程よく自由な校風からくるものだと思います。社会人になった今、程よく自由で学校行事や勉強に、一喜一憂していた高校生活が貴重な日々であったと実感しております。



● 3年次担任

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
黒田	山田	宇野・矢澤	安達・水野正	河本・横内	藤田	長井



学年主任 伊藤 恵美

キリがいいぞ10期生! 10期生、一致団結

楽しかったことしか覚えていない。多分、困ったことや、悩んだことが色々あったのだと思うが、人間の記憶というものは、とても都合良くできているようで、楽しかったことしか覚えていない。自信を持って言えるのは、生徒も教員もみんな一緒に成長できたことだ。

貝塚高校が総合学科になって、10年目に迎えた新入生。10人の担任団を中心に、学年団の先生方や、授業で関わってくださった先生方。授業以外にも、学校生活のさまざまな場面で、学校中の方々に支えられながら過ごした3年間だった。

「自分を知り、自分の考えを持ち、相手に伝え

る。また、相手を知り、相手の立場に立って物事を考え、行動する。そして、社会で自分は何ができるか、果たすべき役割は何かを考える。」を目標に、色々な授業やホームルーム、学校行事、クラブ活動、何気ない生徒との会話の中で、生徒たちに接していたように思う。チーム10期生、卒業時には少しは目標に近づけたかなあと自負している。

何か困ったことがあれば、「生徒に頼ろう」だった。こちらの気持ちを正直にぶつけければ、必ずわかってくれる、応えてくれる、という安心感があった。思えば、なんて幸せな時間だったんだろう。

10期生、みんな頑張ってる?



10期生 赤井 亮太



卒業して早5年が経とうとしていますが、高校時代での貴重な経験は今でも昨日のことに思い出されます。何事にも本気で取り組む貝塚高校生や、真摯に向き合い支えてくださった先生方と出会えたことは私の人生に大きな影響を与えました。

現在、私は人に「教わる立場」から「教える立場」になっています。生徒たちに勉強や私生活についての指導を行う上で最も重視している事は、私自身が貝塚高校で過ごした3年間で身をもって実感した

「何事にも真剣に取り組む大切さ」を伝えることです。これは、貝塚高校に通っていたからこそ学べたことだと思います。また、私が人に「教える立場」になりたいと考えた訳は、貝塚高校で関わってくださった先生方のように、「時に厳しく、時に優しく生徒と向き合う人」になりたいと強く思ったからです。このように、貝塚高校での生活は私の人生をととても豊かなものにしてくれました。今でも貝塚高校に通えた事、先生方や友達に出会えたことに感謝しています。



● 3年次担任

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
中西	山地	高田・水野正	石川・山岡	伊藤恵・川瀬	青木	辻本



学年主任 河野 仁

創立80周年、おめでとうございます。

総合学科11期生として2014年に入学した年次団です。

〃学年スローガン〃を「十一期生の心」から『志高く、夢の実現』を掲げ、学校行事・学年行事、修学旅行等において自立生と共に人間力の成長を何よりも臨んだ担任団でありました。

2年次ではグローバルな視点から、国際理解、異文化理解の心を持ってもらおうと12月に台湾へ修学旅行に行きました。2日目の学校交流では貝高と同じ総合学科のある国立頭城高級家事商業職業学校へ行きました。充実した施設設備に圧倒されながら、歓迎式典の後、授業を共に受けました。言葉の違いはあっても気持ちで通じ合う姿があり、学校を後にするときは、盛大な見送りを受けました。海外に行くのが初めての生徒たちがほとんどで、食べ物をはじめ、様々な異文



化に触れることができました。

また、3年次の体育祭では応援リーダーとして各団の中心となり1、2年次生を引っ張りました。そして3年次による旗手・女子による応援ダンスとこれまでと違ったスタイルで、終わった後の3年次団全員による写真は、皆充実した笑顔で溢れていました。

文化祭でも全クラスが演劇を行い、終了後の後夜祭も限られた時間の中で大いに盛り上がりました。

振り返ってみると、11期生の日々は我々担任団の思いをはるかに超え、〃夢の実現〃へ進んでいくためにお互いで高めあった3年間でありました。みんなに出会えたこと、この学年に関われたことに感謝します。



11期生 武輪菜々子

貝高！最高！

私が貝塚高校を卒業してから、3年半が経ちました。久しぶりに貝塚高校で過ごした日々を思い出すと、楽しかった思い出ばかりが蘇ってきます。いつも全力で楽しもうとする貝高11期生と、それをサポートくださる先生方のおかげで、どの行事もとても楽しかったのを覚えています。

その中でも特に、3年生の体育祭が印象に残っています。私は、オレンジ団の副団長をさせてもらい、3学年をまとめる難しさや大変さを学びました。そしてそ

の大きさ以上に、皆が一致団結し、楽しむ姿を見ることができ、嬉しさや達成感を感じることができました。

大学に行くとクラスもなく、高校のような行事はありません。その中でも私が大学の多くの課外活動に参加し、充実した毎日過ごせているのは、貝塚高校で過ごした日々があるからだと感じます。貝塚高校で過ごした3年間は、私の宝物です。

これからも貝塚高校に関わる方々が幸せでありますように。創立80周年、本当におめでとうございます。



● 3年次担任

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
高井	志水	今西・竹好	大高・土井	秋山・河野	西脇	堂本



学年主任 金子 憲二

私が年次主任をさせて頂いた12期生は前期入試の最後の年でした。高倍率を突破して入学してくる生徒がどんな子たちなのか、担任団もとても楽しみでした。想像していた以上に生徒は明るく、元気がよく、男女とも友人関係も良好でいい雰囲気です。3年間学校生活を過ごせたと思います。男子は毎日グラウンドに出て大人数でサッカーを、女子もバレーボールなどをして交流を深めていました。楽しそうで見ている嬉しく思っていました。また、セーラー服(夏服)の最後の学年でもあり、人気があったようで女子はセーラーが着られてよかったと言っていました。学校行事の思い出は、体育祭は3年次の団応援・旗手演技・有志ダンスです。年次全体が盛り上がり、特に有志ダンスは過去最高の人数が参加し、練習・演技構成などは大変でしたが、最後は全員がまとまり最高の演技になったと思います。文化祭は、やはり3年次の舞台発表です。各クラス独自の作品を完成し、生徒・教員・保護者から高評価を得られました。私の一番の思い出は3年次の舞台発表を全て観劇したこと、1年次にクラスの生徒と一緒に舞台発表に参加したことが今でも忘れられません。いい思い出になっています。そして、



修学旅行。宮古島での3泊4日でしたが、初めて2日間民泊をしました。各家庭で本当に家族のように接して下さった民泊の皆さんに感謝しています。最後、別れる時に号泣している生徒もいて、2日間民泊して良かったと思います。また、最終日に行われた全体レクでは有志のダンス・漫才・歌などで盛り上がりました。それに、沖縄出身のnatchy(ナッチ)さんのライブは全員が感動しました。最後に付き添いの先生全員で踊った『恋ダンス』、生徒は突然のことで驚き・爆笑、大いに受けました。出発以前から各自練習し、宮古島での夜に教員全体のリハを街外れの空き地で行ったことも最高の思い出です。12期生は私にとって年次主任をさせてもらったこともあります。とても印象深い年次でした。本当に協力的で優しい担任団の先生、生徒たちに囲まれた3年間は本当に最高でした。心から感謝しています。



12期生 坂原 大弥

私は保育士になることが夢だったので、保育を学ぶことができる貝塚高校に入学しました。自分の好きな科目を選択することができ、保育検定を取得し、夢に近づくことが出来たのは総合学科ならではのと思っています。将来のイメージが広がりとても良い経験ができた3年間でした。特に思い出に残っているのは、体育祭や文化祭などの行事です。放課後にワイワイと騒ぎながら団応援の曲決めや振り付け、劇の練習をする日々は今思うと、とても貴重な青春の日々だったのだと思います。また、クラス対抗で競い合い本気で勝ちを目指して取り組む姿や歓声は今でも忘れられません。

貝塚高校にはたくさんの思い出が詰まっており、ふ

とした時に学生にもどりたいなと感じます。それは、同期の仲が良く優しい先生に囲まれて生活し、とても楽しく充実した生活をしていたからだと思います。久しぶりに友達と会うと今でも高校生活の話をするし、先生に会うとホッと懐かしい気持ちになります。私は貝塚高校が大好きで本当に楽しい3年間でした。ここで経験した出来事は私にとって宝物であり財産です。80年続く貝塚高校卒業生のひとりになれてとても嬉しいし、どの世代の卒業生も同じ事を思っていると思います。これからも先生方と生徒と一緒に楽しく温かい貝塚高校の校風を守り続けていってほしいと願っています。



● 3年次担任

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
伊藤	大高	山口・石川	新居・竹好・入口	植野・金子	林(イム)	藤井



学年主任 山地 大祐

貝塚高校総合学科13期生といわれて真っ先に思い浮かぶのが、修学旅行の学年レクです。教員らが検討した修学旅行には、「おもわずスマホを手から放してしまうような貴重な経験を」というコンセプトがありました。人生で二度と体験できない、一生の思い出に残る体験やホテルや食事をさせてあげたい、と考えていました。その結果、プランとしてできたのが、インクルーシブ滞在型のホテル、クラブメッドでした。

ですが今、島での体験やホテルの食事よりも、ぱっと思いつく修学旅行は、クイズ大会やダンスなど、生徒が主体になって企画した学年レクなのです。生徒が、自分たちのために、自分たちで考えて、自分たちで企画を実行する。その圧倒的なパワーを私は見せつけられました。どんな教員のおぜん立てよりも、修学旅行の主人公である生徒が実行したもののほうが遥かに思い出深いものになりました。ホテルの外国人スタッフが、「彼ら彼女らは、普通のどこにでもいる

高校生なのか」と教員に聞きに来たことは今でも心に残っています。

また、修学旅行以後、13期生は変わったとおもいます。自分たちがやりたいことを主体的に考えて実行できるようになりました。自分たちで企画を考えて実行するスタイルは体育祭や文化祭でも発揮されました。体育祭では、100人を超える縦割りの団を、最上級学年として引っ張り、大成功を収めました。そして、自分たちが自分たちのために行事を作って盛り上げるスタイルは、今の貝高生にも受け継がれているのではないのかな、と思います。

生徒の成長が頼もしく思えた3年間でしたが、それは教員である私も大きく成長した3年間だったなあ、と思っています。13期生に出会えたことに感謝します。



13期生 藤原 由梨

貝塚高等学校、創立80周年おめでとうございます。
私たちが卒業してはや1年半過ぎましたが、貝塚高校で過ごした3年間の日々は今でも大切な思い出です。チャイムと同時にカレーパンのために食堂へ行ったり、友達とたわいもない話をしながらお弁当を食べたり、文化祭や体育祭では放課後居残りしたり、二度と経験することのない青春を過ごしました。その中でも修学旅行はとていい思い出で、沖縄の石垣島に行き102%全力で楽しめました。

私はソフトボール部に所属していましたが、部員が少なく辛い時もありました。ですが、どんな時でも先生方や友人達に支えられ、後悔なく最後まで続けることができました。

この3年間の経験があったからこそ、今どんな壁



にぶちあたっても頑張ることができ、養った力を今後も活かせられると信じています。

高校生活の三年間は私にとってかけがえのない青春の1ページです。

貝塚高校が母校であることを誇りに思い、今後も「貝高、最高」と言い続けてほしいです。



● 3年次担任

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
馬場	山口	伊藤恵・山地	今川・岡村	高田・藤井	下田	四反田



学年主任 福永 健

14期生は、2017年4月に入学し、2020年3月に卒業しました。

個性的な生徒たちと過ごした3年間はとても濃く、まるでアノ乳酸菌飲料の原液200mLに天然水を1滴だけ落としたような日々でした。この思い出は、未だ薄まることを知りません。

1年次の校外学習は、神戸フルーツ・フラワーパークへ行きました。欠席者が0名で、全員参加の行事になったことは、今でも担任団の自慢の1つです。

2年次の修学旅行は、沖縄県へ行きました。出発当日、台風が襲来し、暴風警報の中、果たして飛行機が飛ぶのかと心配しながら、関空で生徒の出欠点呼を行ったことを思い出します。

3年次は、体育祭と文化祭で、生徒たちが中心となり、貝高生として2年間育んだノウハウを余すことなく発揮し、後輩を引っ張り、自らも楽しみ、学校全体を大いに盛り上げてくれました。

行事もさることながら、日常も大変楽しいものでし

た。学年のフロアには、大きな声とたくさんの笑顔が溢れ、まるで「青空」のような爽快な毎日でした。生徒たちの成長を間近で見ることができた日々は、生徒たちから刺激を受け続けた日々でもありました。生徒との会話を大切にし、また、個々の生徒について教員同士が話し合うことを心がけ、そこから、自分自身で発見できること、他の教員からアドバイスで気づくこと、様々な形で生徒に関する情報を収集し、共有していました。

そのように丁寧かつ熱心な指導を行う教員と子どもに向き合い、寄り添ってくれる保護者に支えられ、生徒たちは、進路実現のときに自らが主役となって、大きな成果をあげてくれたと思っています。

貝高にとって、この創立80周年が、これまでの歴史や歩みを振り返る良き機会となり、100周年に向けて、今後の更なる飛躍をめざすための新たなスタートとなることを強く期待しております。次のステージへ、さあ行こう貝高!



14期生 園田 涼

貝塚高等学校創立80周年おめでとうございます。
今年は卒業式や入学式が新型コロナウイルスの影響で短縮されたり、行われなかったりと切り替えのつかない思いで、新生活がスタートしました。

高校では校外学習や体育祭、文化祭、修学旅行。どれも全力で楽しみました。体育祭の有志ダンスでは、朝早くから集まり何回も練習しました。文化祭ではクラスで一致団結し一つの目標に向かい、喜びや辛さを知りつつ、成功した時の達成感に満ちたみんなの笑顔にたどりつきました。行事ごとに14期のみんなで撮った写真。「貝高、最高」と叫ぶ度に貝

高生でよかったと思いました。水泳部に所属していた私は、先輩に憧れ「速く泳ぎたい」という思いで、必死に練習に食らいつきました。これら全ての思い出が努力を、思いやる心を教えてくれました。

現在、新型コロナウイルスの影響で思うように生活ができず、不安や焦りでいっぱいです。しかし、本当に恵まれた環境で高校生活の3年間を過ごせた経験が私の次へ進む勇気となっています。3年間、たくさんの友達や先生方、家族に支えられ、今の私があります。感謝を忘れずに人の役に立つ人間になりたいです。



● 3年次担任

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
小林	小川真	秋山・高井	慶本・福永	宮下	山口	辻本